

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	吉野ヶ里町立東脊振小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校目標の『賢く』に通じる「学力の向上」については、小中で連携しながら校内研究でも取り組んだが、取り組み内容の徹底が不十分で児童の基礎学力の定着までには至らなかった。県調査においても目標に掲げた結果を出すことはできなかった。 ・学校目標の『優しく』に通じる「心の教育」については、日々の生徒指導の取り組みで大きな事件・事故等はなかったが、日々の学校生活における基本的な生活習慣(言葉づかい、トイレのスリッパ並べ等)についてはまだ課題が残っている。 ・学校目標の『たくましく』に通じる「健康・体づくり」や「業務改善」「地域愛」等については、一定の成果は出せたものの課題も明らかになった。今年度はその課題克服に向けて、具体的な手立てを講じながらより一層の努力を行っていく必要がある。
2 学校教育目標	夢に向かって 共にかんがる児童の育成 ～かしく やさしく たくましく～
3 本年度の重点目標	<p>①学習環境(学習規律・教室環境・生活リズム等)を整え、児童の実態に応じた授業づくりを行うことで、児童の主体的な取り組みを促し、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。</p> <p>②学校生活での約束や学習規律についての職員間の共通理解の上に、児童理解を深め支持的風土の学級経営に取り組むことで、人の持ち味を理解し、友達・家族を尊重し補いあえる児童の育成を目指す。</p> <p>③体育の時間の充実や休み時間の外遊びの奨励により、児童の体力アップを図ると共に、様々な体験活動や地域との交流を通して自分に自信をもち、チャレンジ精神と粘り強さ、郷土愛を育てる。</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者		
	評価項目	取組内容		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、児童の生活のリズムの見直しと家庭学習の充実を図りながら児童の実態に応じた授業づくりの取り組みを推進する。	A	・校内研究で、全職員で児童の実態に応じた算数科の授業づくりの実践に取り組み、授業研究会において研鑽を積み重ねることができた。 ・マイプラン達成への意識をより一層高めていく必要がある。内容を可視化して全職員で具体的に浸透していく。	B	・校内研究では、授業づくりや授業研究会を通して全職員で算数科を中心として、児童の学力向上とともに授業力の向上につながった。 ・学力向上研修会を通して、マイプランの設定や見直しを定期的に行い、教師の自己評価では83%だった。	B	・分かった児童をもっと増やしてほしい。 ・マイプランの共通実践が大切、学力向上は結果が出て評価される。	学力向上コーディネーター 研究主任
	○基礎的・基本的な内容の定着 ・学習規律の徹底 ・家庭学習の充実	○授業前に、「次の授業の準備ができた」と答える児童を90%以上 ○家庭学習ががんばろう週間「目標時間」が達成した」と答える児童を90%以上	・本校での学習規律の取り組みの徹底を基本とし、全クラスで取り組む。 ・各学年の自主の家庭学習時間を提示し、児童に各自で目標時間を設定させて、「家庭学習ががんばろう週間」に取り組ませる。	B	・算数の基礎となる計算の力をつけるために、朝の時間に算数スキルタイムを設け、各学年の実態に応じた計算の練習を継続して行うことができた。 ・学期に1回「家庭学習ががんばろう週間」に取り組んだ。1学期は全校の65%が学年の目標時間を達成できた。	B	・学習規律の徹底が図られ、落ち着いた学習を行っていた。授業開始前に準備ができていた児童は90%、スキルタイムや各学年の取り組みを通して基礎基本の定着が図られているが、家庭学習の取り組みに個人差があり、定着につながっていない課題がある。 ・読書活動の徹底が図られ、読書の習慣を定着させた児童の割合は増えてはいるものの、児童のアンケート結果では73%であった。	B	・家庭での学習の充実は大変と思う、やる気やどうやって維持するか、いい意味で競争心を持たせる方法はないものか。 ・落ち遅い学習を行っていることが何よりと評価される。 ・家庭学習が重要であれば家庭に重要性を周知徹底させ協力を得る。課題は多いが対策が必要では。	学力向上コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動	○「友達と仲良くできている」「良いこと悪いことを考えながら生活している」と答える児童を90%以上 ○心を豊かにするために読書活動推進学年目標冊数達成児童を85%以上	・年間3回の人権教室(集会)を実施し、児童の人権意識を高め、思いやりの心を育てる。 ・図書館祭りなどのイベントの開催とその内容を充実させる。また、授業の内容と関連させた本の紹介を行う。	A	・2回の人権教室2回の平和教室を実施し、人権標語を作るなどの活動を通して、児童に人権を大切にすることや平和の尊さについて考えさせた。 ・児童のアイデアも取り入れ充実した図書館祭りを実施することができた。しかし、学校や個人において読書意欲に差がある。今後も自宅での読書活動を推進していきたい。	B	・職員全員が年間1回の研修に参加し、研鑽を深めた。人権教室を2回、平和集会を1回実施し、児童の人権意識を高め、思いやりの心を育むことができた。 ・「友達と仲良くできている」と答えた児童は82%。 ・読書活動においては、学年目標冊数達成児童65%を達成できた。	A	・ますます重要な取り組みになっているので、しっかり取り組んでいただきたい。 ・先生方が子ども達を大切にしている姿よく見える。よい子ども達だと思う。 ・豊かな心は図書もよいが自然とのふれあい地域行事への参加も大切では。	人権・同和担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ・予防的、開発的な生徒指導の推進	○「いじめ防止等について組織的対応ができています」と答える教師を90%以上	・毎月いじめアンケートを兼ねた「いい日アンケート」を実施し、児童の心の状態の実態把握に努める。 ・毎週水曜日の職員連絡会で生徒指導・教育相談等に関する情報共有の場を設け、全職員による迅速な対応に努める。 ・教育活動全般を通して、児童の発達段階に応じた予防的開発的な生徒指導に努める。	A	・学校評価アンケート(職員用)で「いじめの早期発見や未然防止に努めている」と答えた職員は100%であった。 ・生徒指導等は全職員で情報共有している。担任を中心に管理職や生徒指導主任も指導にあたりしている。 ・月に1回、児童対象の「いい日アンケート」を継続実施。今年度も児童の実態把握がより詳細にできている。	A	・いじめに関する調査を兼ねた生活アンケートを年間を通して毎月実施し、いじめや生徒指導に関する諸問題、学校・学級不応答傾向児童の早期発見に努めた。 ・学級や学年担任の指導にこままら生徒指導主任や管理職も積極的に指導に関わり、問題の早期解決を図った。 ・問題発生から発覚まで、事後指導で、職員連絡会などの場で全職員で情報共有できている。組織的対応の体制が整っている。「いじめ防止等について組織的対応ができています」と答えた教師は100%であった。	A	・早期の対応により軽減されていると思う。 ・いじめ問題は現状に甘んじることなく今後とも開発的な取組指導を推進され、いじめゼロを目指していただきたい。	生徒指導部
●健康・体づくり	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「自分の夢や目標に向かって努力している」と答える児童を85%以上	・学級目標や個人の各学期のめあて等を張り出すとともに、時々振り返り目標の確認と意欲の向上を図る。 ・学校行事や総合的な学習の時間等に、キャリア教育を意識した取り組みを行う。	B	・11月に行ったアンケートでは、「そう思う」と「だいたいそう思う」が82%。昨年度の84%から少し下がっていた。「あまり思わない」は、昨年より4%増えているので向上はできている。様々な機会を通して、さらに夢や目標に向かって努力することの大切さを伝えていく。	C	・3学期は、子ども達も次の学年に向けての意識が高まっている。特に6年生は、「6年生を送る会」での出し物で将来の夢を披露し、その夢に向かって努力している姿が見られたが、児童アンケート結果は72%だった。今後の取組を強化していきたい。	B	・夢や希望を持たせるのは難しいが、個々の目標設定に向けて指導をお願いしたい。 ・外部講師を招いての授業などはとてもおもしろいと思う。子ども達からこそ、たくさんの職業や先輩の話に生で聞いてほしい。 ・外部からの講師などを増やし目標を持つことの意義を教え、大切さを伝える。	教頭
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●望ましい食習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを理解し、アンケートにおいて「毎朝、ご飯を食べて登校している」と答える児童が100%	・生活状況調査の実施 ・保健便りの発行 ・食育月間の実施、食の大切さの啓蒙 ・学級活動での食育推進	B	・11月に実施した学校評価アンケートで、「毎朝、朝ご飯を食べて登校している」と答えた保護者、児童はともに85%であり、「大体そう思う」と前者98%、後者94%となり、目標に近づけることができた。引き続き、3学期の給食週間や「家庭学習ががんばろう週間」での「早寝、早起き、朝ごはん」の呼びかけで、食育について啓発していく。	B	・がんばろう週間での朝食達成率は、1学期90%、2学期94%であり、意識が高まっていると言える。1月の給食週間等で食育について栄養士の話を聞いたり、クッキングセンターの方へ感謝の手紙を書いたりすることで、食の大切さを啓発してきたことの効果があった。 ・「毎朝、ご飯を食べて登校している」児童は95%	C	・家庭での食育はもちろんだが、本人にも体に悪い食べ物、良い食べ物を見分けさせてほしい。 ・朝食を必ずとることよりも、よりよい食習慣について様々な体験や話をしてほしい。アンケート繰り返す感じがする。 ・知育・徳育・体育に食育が加えられ生き生きとした姿がなされている。	保健部(食育)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立	○アンケートを行い、朝の時間、業間休みや昼休みにおいて、「元気に体を動かした」と答える児童の割合を70%以上を目指す。 ○アンケートを行い、「早寝」「早起き」の児童の定着率が90%以上を目指す。	・運動の効果を伝え、外遊びの奨励、体育委員や児童からの全校遊びの提案等で運動機会の確保を図る。 ・スポーツチャレンジ参加を職員へ呼びかけると共に、お便り等で家庭への啓蒙を行う。	B	・体育委員会の活動で、外遊びのできる運動場を提示して全校に知らせた。外で体を動かす児童が多い。寒くなってきたが、4、5年生を中心に縄跳びなどを外で行う児童が出てきている。その一方で、外で体を動かすことが少ない児童が一定数いるので、継続して外遊びを奨励していく。	B	・年度当初の目標であった、「元気に体を動かしている」と答える児童の割合は70%、外で体を動かす運動場を提示し、縄跳び大会の実施に向けて体を動かしたことによるものだと考えられる。 ・「早寝」「早起き」の児童の定着率は65%。課題が残った。	B	・家庭と本人が、早寝早起きの習慣を自覚する必要があるのではと思う。 ・子供達は、外でよく遊んでいる。開放的な運動場や学校川、道具よく整備されていて嬉しい。 ・早起きできないのは子どもでなく家庭に問題があると思えるが、連携強化。	保健部
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の縮減	●業務効率化を図り、時間外勤務の月平均を45時間以内にする。	・18時半頃に運動の声掛けを行い、19時には退勤の徹底を図る。 ・曜日の定時退勤日の設定	B	・数名の教職員の時間外業務が月平均45時間を超えている。思い切った業務の効率化・スリム化を図っていく必要がある。まずは、現状の取り組みの徹底を図っていく。	A	・10月からの1月までの時間外勤務の月平均は32.6時間。今後も縮減に努める必要がある。 ・2学期から職員連絡会の際の資料配布をPDF方式にしたので、印刷や配布の手間が省けた。	A	・事務の負担軽減に努力されていると思う。	教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員の勤務意欲の向上	○「仕事にやりがいを感じている」と答える教師を85%以上 ○休暇取得率の向上(前年度より増)	・チーム東脊振としての組織的対応のアップデートを行う。 ・教職員間の相談・支援の充実を図る。	A	・全体的に各学級が落ち着いた中で、「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると割合は86%であった。昨年度の84%からかなり改善している。 ・休暇取得率は昨年より多い。様々な休暇があることを告知し、疲れを溜めないよう早め早めの声掛けを行う。	A	・年休はいつでも気兼ねなく取れるようになって、遠慮なく取ってもらっている。休暇取得率の向上は88%。 ・12月の教育課程反省の改善を受け、無言無言の呼びかけや給食への異物混入時に対応など出された意見に対しそれぞれの立場で取り組む姿が見られた。	A	・児童の学力・体力の向上に向けて努力されていると思う。 ・先生方も元気に挨拶をされる。そういう時は、「頑張ってる」とこちからも嬉しくなる。	教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者		
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
○あいさつ	○進んで元気なあいさつができる児童の育成	○自分からあいさつができた」と答える児童90%以上を目指す	・生活朝会、学級の時間等様々な機会を通して、あいさつの意味や大切さについて伝える。 ・校長だより、学級だより等を通して家庭への協力を呼びかける。	B	・児童や保護者の意識で自分からあいさつができた」と答える児童が88%。保護者は83%であった。昨年がそれぞれ81%、80%だったことからよくなってきている。今後は、児童会や委員会にも働きかけ、児童の主体的な活動へとつながってほしい。	B	・1年間を通して学級・学年指導、生活朝会の中で「あいさつ」と「正しい言葉遣い」の指導を継続していった。児童の様子を見て、年度当初に比べて指導の効果が現れているように感じる。進んで挨拶ができていたと答えた児童は81%。 ・地域の方々からはさらに元気な挨拶を望む声も聞かれるため、具体的な指導方法に改善の余地がある。	B	・恥ずかしさが前に出て言い出せないものと思われる。 ・園だけでなく家庭や地域でのあいさつ大切さを教えることが大切では。	生徒指導部
○郷土愛	○自然やふるさとを愛する児童の育成	○東脊振の良さを「低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上」言える児童を85%以上	・生活科や社会科、総合的な学習の時間で地域教材を取り入れる。 ・地域人材の活用 ・道徳と関連させた内容も検討していく。	A	・低学年で、地域の施設訪問を行った。 ・総合的な学習の時間にて、3年生のお茶や4年生の福祉の学習で、地域や行政の方の協力を得て充実した学習ができた。	C	・それぞれの学年で地域とつながる取り組みを実施することができた。例えば、4年生では地域教材を活用して読書学習している。しかし、東脊振の良さをそれぞれの学年に伝えている児童は46%と低かった。今後の取組の検討が必要と考えている。	B	・意識できない分野なので具体例での紹介を。 ・郷土(ふるさと)の良さは離れてみて初めて気付くことも多い。郷土の歴史は授業で積極的にお願いしたい。我が地区自衛隊などを作るのもおもしろいでは。 ・地域との関わりや行事を観が選けている伝統行事等積極的な参加が大切。	生活・総合主任 各学年主任
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対応できることが増えたという教師90%以上	・児童理解の会による職員間の共通理解 ・特別支援教育に係る研修会の実施	B	・定期的に児童理解の会を行い、児童の実態に応じた対応について共通理解を深めた。 ・夏季休業中に特別支援教育についての研修会を行い、具体的な手立ての方法を学べた。	A	・定期的に児童理解の会を行い、3学期は、次年度に向けて引き継ぎ事項や児童への対応などの共通理解を全職員で共有することができた。 ・研修で学んだことを児童への支援の中で活かしてきた。配慮を要する児童に対応できることが増えた教師は92%だった。	A	・意識せず、自然体で過ごしていることが重要なので、取り組みを続けてほしい。 ・教科の課題に取り組むまでに先生方の苦勞・負担が大変だと感じる。教職員のケアが十分されているか少し心配。 ・特別支援の教育は大変であるが大切であり、子ども達みんなが注視している。	特別支援教育担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>①未来に向かって、自ら考え進んで学ぼうとする子どもを育成するために、児童の主体性を促しながら校内研究による学力向上の取組(授業づくり・スキルタイム・家庭学習等)を充実させ、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。</p> <p>②人の持ち味を理解し、友達・家族を尊重し補いあえる子どもを育成するために、児童理解を深めながら支持的風土の学級経営に取り組むと共に、様々な体験活動や地域との交流活動を通して、自然と郷土を愛し友達を大切にすることの心の教育の充実を図る。</p> <p>③自分に自信をもち、様々なことに挑戦し粘り強く取り組む子どもを育成するために、特別活動や縦割り活動、食育、体育的活動の充実等を通して豊かな人間関係を築かせながら児童の体力アップを目指す。</p>
----------------	--